

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- 「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にし履修を行って下さい。
- とくに、プログラムのカリキュラム構成が「積み上げ型」か「自由履修型」かで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- 「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それをはるかに上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- 各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目（教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目）です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたりベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

文化人類学プログラム

履修のしかた

本プログラムは、以下のように、「基礎・導入」・「理論・方法論」・「地域・宗教・応用」の3つのカテゴリから構成されています。積み上げ式ではなく、自由履修型ですが、「基礎・導入」カテゴリの科目は、可能な限り2年次終了までに履修してください。

「基礎・導入」カテゴリ

ここでは文化人類学の理論やものの見方の基本を学びます。「文化人類学の歴史と方法」は、1年次秋学期か2年次春学期までに履修するとよいでしょう。また、本プログラムの修了要件には入っていませんが、専門基礎科目(社会基礎)の「文化人類学概論」を早い段階で履修することを推奨します(「文化人類学概論」は、「文化人類学フィールドワーク」の先修条件ともなっています)。

「文化人類学文献講読」(2年次)は、講読をとおして文化人類学的なものの見方をじっくり学ぶことができ、3年次の専攻演習の履修に向けた基礎力をつけることができます。

「理論・方法論」カテゴリ

ここにはトピック別に多彩な科目が配置され、本プログラムの中心的な科目群となっています。宗教・多文化共生・ジェンダー・開発・観光・医療・環境・資源・游牧文化と、トピックは多岐にわたりますが、相互に密接に関わっていますので、関心に合わせて組み合わせることで効果的な学修ができます。多様な切り口から文化人類学的アプローチを身につけるため、単位を充足するだけでなく、このカテゴリの科目をできるだけ多く履修することを勧めます。

このほか、「文化人類学フィールドワーク」は現地調査ができる実習科目です。そこから得た学びを、環境や游牧文化などの別の科目でさらに深めることができます。積極的に履修を検討してください。

「地域・宗教・応用」カテゴリ

ここには主に他のプログラムが提供する科目が配置されています。関心をもったトピックや地域に応じて選択することで発展的に学ぶことができます。

本プログラムでは、自ら問いを立て、情報を収集し、批判的に考え、その成果を発信する力の習得を重視します。そのため3年次で専攻演習を、4年次で卒業論文に取り組むことを強く推奨します。

他のプログラムとの関係

文化人類学の科目を他のプログラムの科目と組み合わせることで領域横断的な学びができます。社会領域内ではとくに、歴史学、社会学、法・政治学プログラムと密接な関係があるほか、他の領域では、例えば、人文領域の宗教学や、統合領域の国際協力、アメリカ研究、アジア研究、環境学、博物館学、多文化共生、地域デザインのプログラムなどで関連の深い科目が提供されています。関心に合わせて組み合わせ、LA学群ならではの学際的学びの面白さを体験してください。

留学

異文化理解の日常的実践という意味で、短期・長期の留学や海外研修を強く勧めます。また、国内留学を通じて日本社会の多様性への理解が深まるでしょう。課題探求実践科目にあるサービスラーニングの科目の履修でも、フィールドワークの貴重な機会が得られます。

学生へのメッセージ

- ・異文化に出会う驚きや楽しさを若い感性で受け止め、各自の関心を最大限に伸ばしていきましょう。また、戦争、災害、排外主義の高まりなどのグローバルな課題の解決に向けて、文化人類学を軸に学際的視点から考える力を鍛えてください。文化人類学の学びをとおして、自分とは異なる物差しがあることを知り、柔軟に発想して協働する姿勢を身につけておけば、仕事やその他の生活のさまざまな場面で糧となるはずです。
- ・本プログラムでは、学生が主体的に活動する「桜美林大学文化人類学学生研究会(略称:OSSCA)」と協働し、イベントや日帰りフィールドワークを実施しています。積極的に参加して下さい。

文化人類学プログラム

1 多文化共生や人の移動(移民)に関心のある学生に向けた履修モデル

文化人類学をメジャーとして履修する学生向けのものです。文化人類学の対象は多岐にわたり、各自の関心に合わせた科目の組み合わせが可能です。このモデルでは、多文化共生や人の移動(移民)に関心を持ち、地域としては、日本、朝鮮半島、アメリカという三極的な視点から学びを深めたい人を想定しています。

この履修モデルは一例にすぎません。各自の関心に合わせて自由な発想で学びを発展させてください。

文化人類学プログラム科目

level	100			200			300			400		
カテゴリ	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2		異文化コミュニケーション A	2						
		世界史概論 A	2		社会学の理論と応用	2						
				○	文化人類学文献講読	2						
理論・方法論				○	宗教人類学A	2		文化人類学フィールドワーク	2			
					宗教人類学B	2						
				○	多文化共生の人類学	2						
				○	公共人類学	2						
				○	ジェンダーの人類学	2						
					開発の人類学	2						
				○	観光人類学	2						
					医療人類学	2						
					環境人類学	2						
地域・宗教・応用					資源人類学	2						
					遊牧文化論	2						
		アジア研究概論 A	2	○	アメリカの文化	2	○	アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2	○	韓国文化論	2	○	アメリカ女性論	2			
		環境文明論	2		中国文化論	4	○	日米交流史A	2			
		情報と社会	2		日本研究概論	2		日中交流史	2			
		イスラーム史概論	2		国際開発論	2	○	日韓交流史	2			
					SDGsとグローバルガバナンス	2		日本民俗学	2			
					日本芸術論	2		仏教文化論A	2			
					アジアの思想と宗教 I	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 文化人類学概論〔2〕
- ・ 多文化社会論〔2〕
- ・ 日本の宗教・世界の宗教〔2〕
- ・ 比較社会学A〔2〕
- ・ 移民法〔2〕

文化人類学プログラム

2 人と環境、社会、文化の関係に関心のある学生に向けた履修モデル

文化人類学をメジャーとして履修する学生向けのものです。このモデルでは、とくに、自然、身体、観光、遊牧など、人と環境、社会、文化の関係に関心をもつ人を想定しています。持続可能な社会や地域の暮らしのほか、環境、医療、観光などのグローバルな課題について幅広く学びます。このほか、＜環境プログラム＞の科目なども積極的に履修するとよいでしょう。

文化人類学プログラム科目

Level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2		異文化コミュニケーション A	2						
	○	世界史概論 A	2	○	社会学の理論と応用	2						
				○	文化人類学文献講読	2						
理論・方法論				○	宗教人類学A	2	○	文化人類学フィールドワーク	2			
					宗教人類学B	2						
					多文化共生の人類学	2						
					公共人類学	2						
				○	ジェンダーの人類学	2						
					開発の人類学	2						
				○	観光人類学	2						
				○	医療人類学	2						
				○	環境人類学	2						
				○	資源人類学	2						
地域・宗教・応用		アジア研究概論 A	2		アメリカの文化	2		アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2		韓国文化論	2		アメリカ女性論	2			
	○	環境文明論	2		中国文化論	4		日米交流史A	2			
	○	情報と社会	2		日本研究概論	2		日中交流史	2			
		イスラーム史概論	2	○	国際開発論	2		日韓交流史	2			
				○	SDGsとグローバルガバナンス	2	○	日本民俗学	2			
					日本芸術論	2		仏教文化論A	2			
				○	アジアの思想と宗教 I	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 文化人類学概論〔2〕
- ・ 宗教学入門〔2〕
- ・ 文化遺産論〔2〕
- ・ 地球環境問題と国際取組〔2〕
- ・ 持続可能な社会〔2〕
- ・ 循環型社会論〔2〕
- ・ 人間環境学〔2〕

文化人類学プログラム

3 地域創生などに関心のある学生の履修モデル

本モデルは文化人類学をメジャーとして履修する学生向けのものです。このモデルは文化人類学的観点から、地域創生など、地域社会をめぐる諸課題について学び、考えたい学生向けのモデルです。関心をもつ地域としては日本を想定しています。

文化人類学プログラム科目

level	100			200			300			400		
カテゴリー	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2		異文化コミュニケーション A	2						
		世界史概論 A	2	○	社会学の理論と応用	2						
					文化人類学文献講読	2						
理論・方法論					宗教人類学A	2		文化人類学フィールドワーク	2			
					宗教人類学B	2						
				○	多文化共生の人類学	2						
					公共人類学	2						
					ジェンダーの人類学	2						
				○	開発の人類学	2						
				○	観光人類学	2						
					医療人類学	2						
					環境人類学	2						
地域・宗教・応用				○	資源人類学	2						
					遊牧文化論	2						
		アジア研究概論 A	2		アメリカの文化	2		アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2		韓国文化論	2		アメリカ女性論	2			
	○	環境文明論	2		中国文化論	4		日米交流史A	2			
		情報と社会	2	○	日本研究概論	2		日中交流史	2			
		イスラーム史概論	2		国際開発論	2		日韓交流史	2			
				○	SDGsとグローバルガバナンス	2	○	日本民俗学	2			
					日本芸術論	2		仏教文化論A	2			
					アジアの思想と宗教 I	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 文化人類学概論〔2〕
- ・ 地球市民社会論〔2〕
- ・ 持続可能な社会〔2〕
- ・ 環境と地域〔2〕
- ・ 地域デザイン概論〔2〕
- ・ 地域観光論〔2〕
- ・ 地域社会学A〔2〕
- ・ 文化遺産論〔2〕
- ・ 文化政策論〔2〕
- ・ 博物館概論〔2〕
- ・ 地域経済論〔2〕

文化人類学プログラム

4 マイナーモデル

本モデルは文化人類学をマイナーとする学生向けの履修モデルです。このモデルは、統合領域のアメリカ研究プログラムをメジャーとし、トピックとしては多文化共生に関心がある学生を想定しています。アメリカ地域研究を主専攻としつつ、多文化共生への文化人類学的アプローチを組み合わせることで学ぶことができます。参考のための一例にすぎません。自分の関心にそってユニークな組み合わせを考えてください。

文化人類学プログラム科目

level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2		異文化コミュニケーション A	2						
		世界史概論 A	2	○	社会学の理論と応用	2						
					文化人類学文献講読	2						
理論・方法論					宗教人類学A	2		文化人類学フィールドワーク	2			
					宗教人類学B	2						
				○	多文化共生の人類学	2						
				○	公共人類学	2						
					ジェンダーの人類学	2						
					開発の人類学	2						
					観光人類学	2						
					医療人類学	2						
					環境人類学	2						
					資源人類学	2						
地域・宗教・応用					遊牧文化論	2						
		アジア研究概論 A	2	○	アメリカの文化	2	○	アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2		韓国文化論	2	○	アメリカ女性論	2			
		環境文明論	2		中国文化論	4		日米交流史A	2			
		情報と社会	2		日本研究概論	2		日中交流史	2			
		イスラーム史概論	2		国際開発論	2		日韓交流史	2			
					SDGsとグローバルガバナンス	2		日本民俗学	2			
					日本芸術論	2		仏教文化論A	2			
					アジアの思想と宗教 I	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数